

平成27年度

事業報告書

第 18 期

自 27年 4月 1日

至 28年 3月31日

社会福祉法人 松友会

平成 27 年度社会福祉法人松友会 事業報告書

1. はじめに

平成 27 年度の介護報酬改定は全体でマイナス 2. 27% の減額であったが、介護職の処遇改善のみに使う「処遇改善加算」がプラス 1. 65% であり、重度や医療ニーズ対応に加算する「介護サービスの充実」分がプラス 0. 65% で、この 2 つを除くと、介護サービスの基本単価は実質 マイナス 4. 48% の大幅減額改定であった。

また、社会福祉法人の経営に対しての風当たりが強くなった年であり、その主な要因は、一部の社会福祉法人が抱えている多額の「内部留保」が問題視され、それを受けて社会福祉法人に対する課税や法人の財務状況の情報公開等が議論された。

非常に厳しい状況の中、松友会が開所当初から力を入れている重度、認知症の利用者の受け入れの強化、さらに質の高い介護サービスを提供してあらゆる加算を取得し、稼働率を限界まで維持することを職員一人一人努力した結果、過去最高の事業活動収入を達成することができた。

2. 収益事業

新たな事業、福祉有償運送サービスみつばちは、事故、クレームもなく順調なスタートを切ることができた。現在、研修が終了し運転が可能な職員は 12 名である。収益性の高いサービスではないが利用された方からは大変喜ばれ、松友会の他のサービスの利用増加に貢献した。

平成 27 年度の実績は登録 24 人、運行回数 289 回、走行距離 825 km であった。

3. 人員について

平成 28 年 3 月 31 日現在、松友会の職員は 179 人である。平成 27 年度 1 年間の退職者は 16 人、そのうち正職が 6 人、非常勤職員が 10 人であった。離職率は 8. 9% になる。現在、産休および休職者は 4 人である。

また入職者は 21 人であった。正職 10 人、非常勤は 11 人であった。入職者のうち 7 人は、職員からの紹介であった。以前から紹介は多かったが年々増加傾向にあり、職員が働きやすい環境を維持して人材確保の強力な武器とした。

また、大手の新卒向けの求職サイトと契約したが応募は皆無であった。

4. 新規事業

昨年から準備を進めている地域包括ケアの拠点となる東成瀬地区の新規事業については、さくら草を設計したK設計の足立氏と契約を結んだ。また地盤調査を実施した結果、地盤補強の必要はなく、平成28年4月に工事業者を入札にて選定し平成29年3月の開所を目指している。

地域の生活課題、福祉ニーズに積極的に応えることによって地域の人々から真に信頼と支持を得ていきたい。

5. 設備整備等その他

- ① 水道光熱費は、水道代の減免率が前年比から8%下げられたにも関わらず、LEDの導入、ガス料金の契約、エアコンの効率化などで前年比14%削減できた。
- ② らんの里、らんの家は開所して16年が経過し設置している為、シャワートイレ、小便器用の人感センサー等の故障が多発し、また屋上に設置している厨房用の排気設備も騒音が激しくなり交換した。
- ③ らんの里、らんの家の全てのベッドマットレスを交換し、身体の状態に応じたマットを使用することによる負担軽減につながり好評を博した。
- ④ 車載無線、基幹サーバーの不具合が発生し新規購入した。また、マイナナンバー対策として、使用している給与ソフトのメーカーから新たなソフトを購入した。
- ⑤ 開所から13年が経過しているすずらんは、空調機器の一部と浄化槽のブローアを交換した。
- ⑥ 日本財団から福祉車両の補助金が交付をされ、すずらんデイサービスの送迎車輛を増車した。
- ⑦ 平成26年度のらんの里に続き、さくら草、オハナも伊勢原市と福祉避難所の協定を結んだ。

6. 最後に

冒頭にも述べたように今回のマイナス改定の危機に直面して職員が一丸となり、過去最高収入を達成することができた。

他法人が躊躇する困難な利用者に対してどうすれば受け入れることができるか相談員、看護、介護職員が連携して協議して簡単に諦めず進めてきた結果であり、松友会の方針を理解した意識の高い職員に感謝したい。